

組合員参加で豊かな森林資源を最大限活用した「脱炭素」に向け、新たな挑戦



組合長挨拶

組合員の皆様には、組合の運営等にご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

当組合管内の民有林の約7割を占める広葉樹林は、かつて薪炭林などに利用されてきましたが、現在は林業経営には向かず放置され荒廃が進んでいます。

この広葉樹林の資源を最大限に活用し、健全な森林に蘇らせ、儲かる森林として活用するため、昨年度、農中森力基金事業の採択を受け、広葉樹資源の価値の向上と販路の開拓、森林資源情報の効果的かつ効率的な把握方法の検討を行いました。また、本年度は、国立研究開発法人の支援事業を活用し、広葉樹の早生樹化の手法開発及び伐採時に山に残っていた枝条の木質バイオマス燃料化など、木質バイオマス燃料の安定的、効率的な供給・利用システム構築のための実証を行うなど、新たなチャレンジを進めています。

また、脱炭素に積極的に取り組むため、公共施設、民間施設等への木質バイオマスボイラー等の導入を促し、木質バイオマスチップの供給先の拡大を図るなど木質チップを活用した「地域資源循環、地産地消による熱供給システム」の構築を自治体等と協働で推進していくこととしています。

今、森林・林業を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。木質バイオマスの「リサイクル&バイオマス化学」への利用、「木造都市の加速」、「儲かる林業」といった「森林の循環経済」の実現と2050年カーボンニュートラルに向け、森林資源を最大限に活用した新しいビジョン、ビジネスが大きく動き出しています。当組合は、世界に誇る「北アルプス」の麓、地球規模で取組まなければならない、2030年までのSDGsの持続可能な開発目標及び2050年カーボンニュートラルの実現に向け、水源涵養、CO₂の吸収機能を持つ美しい自然、森林を守り育て、森林資源の最大限の活用を組合員の皆様とともに進めてまいります。

さて、組合員の皆様をはじめ県、市町村、地元企業等のご支援をいただき、組合経営も徐々に体力を付け、安定経営に向かっております。しかし、県等への補助金返還債務がこれからの組合経営を圧迫していくことを懸念しています。組合が地域林業の中核的な役割を発揮し、将来にわたり林業、地域振興のため存続し続けること、また、組合経営を担う職員が今後も将来に向かって夢と希望を持って働き続けることができるよう、今年度、県に対し組合負担の軽減等を要請してまいりますので、組合員の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

去る5月28日の第43回通常総代会において、令和6年度から3年間の組合の経営を担う役員が改選されました。新しい役員体制の下、職員と共に組合員の皆様が先代から受け継ぎ、守って来られた山、森林資源のフル活用のため、全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方がご健康でご活躍されることを心よりご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

北アルプス

森林組合だより

JForest

北アルプス森林組合

大町市平 10788-1

電話 0261-22-0711

FAX 0261-22-4380

E-mail: alpstfa@

jforest-kitaalps.jp

令和6年7月発行



長野県SDGs推進企業
に登録されています



代表理事組合長
割田 俊明

第43回通常総代会を開催しました

去る令和6年5月28日、サン・アルプス大町において、第43回通常総代会を開催しました。

来賓に井口中信森林管理署長様、斎藤北アルプス地域振興局長様、須澤大北緑化推進協議会長様など6名をお迎えし、出席総代45名、書面出席104名により、令和5年度事業報告、決算及び令和6年度事業計画について審議いただき、いずれも原案どおり決定・承認されました。

また、任期満了に伴う役員(理事・監事)の選任が行われ、16名(再任11名、新任5名)の方が選任されました。

※組合員の皆様は、当組合事務所の窓口で総代会資料をご覧くださいませ。



【令和5年度事業報告】

令和5年度は、森林整備事業推進のための職員・作業員の増員を図るなど、体制強化を図りました。また、当地域の特徴である広葉樹資源を最大限に活用し、広葉樹林業の確立を図るため、農林中金森力事業や国立研究開発法人の助成事業に取り組みました。

【令和5年度及び過去3年間の決算状況】

(単位：千円)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
一 般 事 業	指導事業	収益	128	115	994	1,696
		費用	2,228	2,043	3,054	2,011
	販売事業	収益	55,115	101,372	50,039	42,823
		費用	29,568	60,205	27,543	31,964
	加工事業	収益	4,707	2,820	17,374	40,146
		費用	2,879	7,410	33,506	43,079
	森林整備事業	収益	148,263	202,830	155,646	263,061
		費用	108,118	148,427	113,837	184,730
林業経営事業		収益	2,274	0	3,643	0
		費用	1,537	589	1,316	18
事業総利益		66,157	88,463	48,440	85,924	
事業管理費		48,398	65,388	74,820	74,868	
事業利益(損失)		17,759	23,075	-26,380	11,056	
事業外損益	収益	3,380	1,763	3,280	3,345	
	費用	2,329	3,731	2,881	2,591	
経常利益		18,810	21,107	-25,981	11,810	
特別損益	収益	305	45,071	2,105	300	
	費用	39,192	888,783	100	60	
税引前当期利益		-20,077	-822,605	-23,976	12,050	
法人税及び住民税		-183	-182	-182	-182	
当期剰余金(損失金)		-20,260	-822,787	-24,158	11,868	
前期繰越剰余金(損失金)		-152,021	-172,281	-995,068	-1,019,226	
当期末未処理損益金		-172,281	-995,068	-1,019,226	-1,007,358	

【販売事業】

販売量は前年度より増加しましたが、木材価格の低迷により収益は前年度より少なくなりました。

薪の需要が増加しています。

【加工事業】

製材は賃挽きの依頼が徐々に増加してきました。木質バイオマス事業は、木質チップの供給量が思ったように伸びなかったこともあり、黒字には至りませんでした。

【森林整備事業】

職員の増員や技術・能力の向上により、森林整備面積、収益とも前年度に比べて大きく増加しました。

【経常利益】

当初計画には届きませんでしたでしたが、前年度の赤字から大幅な回復となりました。

【令和6年度事業計画】

- 1 経営の安定、財政基盤の健全化に向け、組合員及び地域に信頼、期待される組合活動・事業運営に取り組みます。また、木質バイオマスチップの生産・供給拡大により化石燃料からの切り替えによる脱炭素への取り組みを行うとともに、森林資源の最大限の活用や資源循環型の持続可能な林業など林業の長期ビジョンを描く全国組織に参画し、2050年に向けた新たな林業を考えます。これらの目標達成のために、次の具体的な取り組みを進めます。

- ① 森林整備の推進に向け、資格取得の促進と直営班の増強
- ② 木質チップの安定生産及び供給体制の確立
- ③ 製材所の稼働率アップと広葉樹製品のブランド化
- ④ 森林資源のフル活用による脱炭素の推進 など

2 補助金等の不適正受給に伴う補助金等返還金に係る「補助金返還等支払計画及び事業経営計画」は、法人税の課税額の増加による経営への負担増や、国政等の政策変更に伴う収益減に対応した組合運営の必要性から、前倒しして見直し、県に要請します。

新役員が選任されました

(順不同)

第43回総代会において、新役員の選任が行われ、役員推薦会議で推薦された右表の16名(地区選出13名、学識経験者等3名)が選任されました。

総代会終了後に開催された理事会、監事会で、代表理事組合長に割田理事、副組合長に降幡理事、代表監事に長澤監事が選出されました。

経営健全化、補助金返還金等債務への対応等待ったなしの大きな課題を、役職員一丸となって対応してまいります。

この総代会をもってご退任された4名の役員におかれては、再建に向けた組合運営にご尽力いただくとともに、組合と地区を繋ぐ大変な役割を担っていただきました。深く感謝申し上げます。

役職	選出地区等	氏名	組合役員歴
代表理事組合長	学識経験者等	割田 俊明	前組合長
副組合長理事	大町市社	降幡 博	前副組合長
理事	学識経験者等	牛越 徹	継続2期目
理事	学識経験者等	向山 繁幸	継続2期目
理事	大町市大町	諏訪 光昭	継続2期目
理事	大町市常盤	古畑 佐富	継続2期目
理事	大町市八坂	勝野 健一	新任
理事	大町市美麻	酒井 一行	継続3期目
理事	池田町	宮本 和紀	新任
理事	松川村	榛葉 洋平	継続3期目
理事	白馬村神城	田中 哲	新任
理事	白馬村北城	松澤 忠明	継続2期目
理事	小谷村	松澤 千嘉吉	継続2期目
代表監事	大町市平	長澤 奨	継続2期目
監事	松川村	熊井 達	新任
監事	白馬村北城	平林 豊	新任

県R5ウッドチェンジ普及促進事業活動報告～地元材で製品開発

ウッドチェンジとは、「身の回りのものを木に変える」、「暮らしに木を取り入れる」「建物を木造・木質化する」など、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。

当組合では、令和5年度ウッドチェンジ普及推進事業に採択され、地元産の檜、杉、栗材を使用して「ミーティングワーキング用の多機能性デスク&チェア」を開発しました。北アルプス産材の板材や角材の良さを、実際に座ったり、触れていただくことで体感できる製品です。展示イベントでの評判も無垢材の癒し効果で上々でした。

木製製品の注文製作のご用命がございましたら、まずはご相談から承ります。また、製材もお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせください。



開発した板材や角材の展示



東京丸の内 移住定住イベントへの展示

イベント等参加での展示実績他は次のとおりです。

- 2024.2.8 東京丸の内 移住定住イベント
 - 2024.5.9 長野県庁 ウッドチェンジ普及促進事業成果報告会
 - 2024.5.11-12 やまびこドーム NBS グランフェスタ
 - 2024.5.23-6 末 大町合同庁舎 1F 展示
- 他信毎、大糸タイムスに掲載される

森林組合の事業の様子

森林整備事業（池田町大峰高原）

令和5年度は池田町において、約7haの搬出間伐を実施しました。



調査



作業道開設



伐採



集材・造材



搬出



完了

支障木特殊伐採

- 皆様からの依頼件数が増加しており、現地見積から伐採までお時間を頂戴しております。
- 高所や急斜面などの悪条件でも、十分な安全管理のもと伐採を行っております。



依頼件数の実績

令和4年： 98 件
 令和5年： 142 件
 令和6年： 40 件※
 ※6月末時点

◎住宅付近の枯木は大変危険です!!
 生活に支障となる立木の伐採は森林組合にお問い合わせください。ご相談承ります。

関連事業（SDGs学習旅行）

- 昨年度から、大町市が企画するSDGs学習旅行のコースの一つとして、森林組合も受け入れを行っております。
 昨年度は、管内・県外の中中学生や住民の皆様3件の受け入れを行い、日頃見ることがない製材や木質バイオマスチップの製造工程の見学などを通じて、木を身近に感じていただくとともに、森林が果たす役割、林業の必要性を学んでいただきました。



組合の新たな挑戦 ～広葉樹材の活用に向けた取組み～



母樹を残した作業後の現場



三次元データの一例(360°閲覧可能)

【ハード事業】

「皆伐母樹保残による資源活用と更新」

ハード事業では伐採後の効率的な更新を検証するため、大町市社地区の11.6haの広葉樹林で、切り株からの萌芽と種子の発芽を活かした更新を促す施策を実施しました。

特に種子による更新を促すために実施した皆伐母樹保残(種子の供給元となる母樹以外は皆伐)は当事業における特徴的な施策になります。

更新方法の検討にあたっては、先進事例地への研修視察、専門家からのアドバイスをいただきながら進めました。

また、作業方法についても広葉樹と針葉樹で異なるコツを学ぶための研修会も実施しました。

1 農林中金森林再生基金事業

【広葉樹林業を目指して】

当地域の民有林の約7割を占める広葉樹を林業として確立することを目的に、昨年度、農林中金森林再生基金の助成を受け、長野県森林組合連合会と共同で、事業に取り組みました。この事業ではソフト事業として広葉樹資源情報の効率的・効果的な把握方法を検討するとともに、ハード事業として低コスト・高効率な維持・更新方法の検証を行いました。

【ソフト事業】

「三次元データ取得による需給マッチング」

広葉樹材の販路開拓に向け、立木段階で需要者(地元木工家、家具メーカー)とマッチングを図れるよう、立木の三次元データを取得しインターネット上で公開し、需要者が画像や三次元モデルから、材の直径や樹形を確認できるようにしました。

需要者向けに開催した現地講習会では、木口を確認しないと購入可否の判断はできない等の意見をいただき、インターネットへの立木の掲載情報のみでは購入の判断に繋げることは困難であることが分かりましたが、同時に掲載情報に森林の歴史などの付加価値を付すことで現地に該当木を見に行く価値があるかの判断ができるとの評価もいただきました。

課題は残りましたが、今回の事業により、県外の家具メーカーの方が原木を確認し、家具用材として供給することができ、販路拡大のきっかけづくりになりました。



広葉樹の伐倒研修会の様子

今後は伐採後の更新状況のモニタリングを行い施策方法の検証を続け、広葉樹林での施策に向けた積極的なアプローチを行っていくとともに、広葉樹材の情報の効果的な発信・共有をすることで、継続的に需要者との情報共有ネットワークの確立を進めていきます。

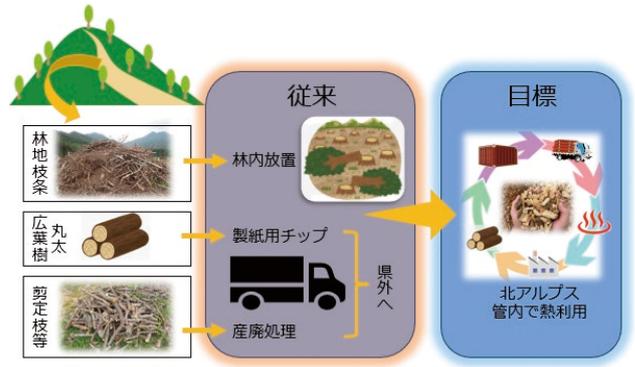
なお、本事業の成果は、7/16-17に東京で行われる森林組合トップセミナーで全国に向けて発表します。

2 NEDO事業

木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた燃料の安定的・効率的な供給・利用システム構築を目指す経済産業省所管の「NEDO事業」に採択され、当管内の特徴である広葉樹等の利活用に焦点をあて、実証事業を開始しました。

【実証事業のテーマ】

- ① 新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業
- ② 山に残っていた枝条（林地枝条）等の活用を含む木質バイオマス燃料の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業



テーマ②のイメージ図

組合員の皆様へのお願い

施業の集約化による森林経営計画の状況

当組合では、効率的な森林整備業務を進めるため、施業の集約化を行っております。現在、当管内では大町市、池田町、松川村を含め6件の集約化が完了し施業しており、また大町市美麻、白馬村でも集約化を進めています。今後も継続的に森林経営計画の策定に向けて調査を進めてまいりますので、組合員の皆様のご協力をお願いいたします。

また、森林整備などのご相談がある方はご一報ください。

組合員の名義変更の手続きをお願いします

組合員がお亡くなりになった場合、所有の山林を相続された場合などは、組合員の名義を変更する必要があります。この場合、名義変更届を相続開始から10か月以内に届けていただくことになります。具体的な手続き等詳しくは組合にお問い合わせください。

今年の新規採用職員、作業員の紹介

今春組合には新たに3人の仲間が加わりました。

- 西山さん：安全管理を徹底して現場管理を行います！
- 大岡さん：旧中条村在住。地域おこし協力隊を経て採用。
- 竹森さん：事務処理、素材生産等のサポートを行います。

毎年、林業への興味とやりがいを求め、多数の方が森林組合のメンバーに加わっています。職員・作業員一同、一致団結して組合員の皆様から託された業務に取り組んでいます。

林業経験のある方に限らず、林業に興味のある方、森林組合で働いてみませんか。



左から西山さん、大岡さん、竹森さん

お知らせ

ウッドチップ舗装を検証中です

ウッドチップと現場の土・砂、土壌硬化剤を混ぜて転圧することで、吸水性に優れ、雑草が生えない舗装を、検証しています。保水性もあり、夏場の温度上昇を抑える効果もあります。興味のある方は、組合にお問い合わせください。

